©2019「ハルカの陶」製作委員会

2019年10月25日㈮
岡山先行ロードショー！

04 備前焼をテーマにした映画『ハルカの陶』がもうすぐ公開！

備前焼をテーマにした映画『ハルカの陶』の先行上映が、10月25日㈮から岡山県内の主要映画館にて始まります。映画は昨年10月中旬から、備前焼のふるさと・備前市を中心に全ロケが岡山県内で行われました。今後、11月30日㈯から東京都渋谷「ユーロスペース」ほか全国ロードショーが予定されています。この映画を通じて、備前焼の魅力を広く発信し、地域の活性化につなげていくことを目指しているそうです。

出演：奈緒、平山浩行、笹野高史ほか
監督・脚本：末次成人
音楽：佐藤礼央、サボテン高水春奈
原作：作／ディスク・ふらい
画／西崎泰正『ハルカの陶』（芳文社）

ストーリー
東京の平凡な25歳のOL小山はるか。ある日、百貨店の陶芸展で見た備前焼の大皿に衝撃を受け、会社を辞めて単身、備前市へ。人間国宝・榊陶人の諭しもあり、その大皿を作った新進気鋭の作家・若竹修の弟子見習いとなる。「土練り3年、ロクロ6年」と言われる備前焼。その果てしない備前焼の道に挑むはるかは、苦難を乗り越えながら、たくましく成長していく。

©ディスク・ふらい／西崎泰正／芳文社

主演の奈緒さんにインタビュー！

備前焼のなかでも「火襷」が好きです（笑）。

備前焼は最初は難しい骨董品と思いこんでいて知識はほとんどなかったのですが、備前焼の作家の先生たちからひとつずつ魅力を教わるなかで、どんどん興味がわいてきました。なかでも私は「火襷（ひだすき）」が好きで、備前焼初心者の若い女性には、丸みのある器をおすすめします。「一度ろくろを回して土に触ったら誰でも好きになる」と先生から伺いましたが、まさにそのとおりですね。童心に帰ったり、ひんやりした土の心地よさだったりが面白くて、なかなかうまくいかないときも、次こそはと制作意欲がわきます。ろくろを回して形を作るところが重要だと思っていましたが、先生の話や撮影を通して窯炊きの重要さを知ったので、いずれは窯炊きのシーズンにおじゃましたいなと思っています。

プライベートでも岡山に来るようになりました。

映画の撮影で初めて岡山に訪れましたが、お仕事を含めてプライベートでも岡山に訪れることが増えたんです。お会いした皆さんの地元への愛着の深さを感じました。新しいものと組み合わせて岡山のものを取り入れることを考えているお店も多くて、岡山に来ないと出合えないものが多いなと思いました。もし、旅行の行き先に迷ったなら岡山を推薦しますね。ノープランでも人のやさしさやおいしいご飯に出合えるし、必ず癒やされると思うので、疲れていたり、リフレッシュしたいという人はおすすめな場所ですね。

備前焼を知らない人にも魅力が伝わる作品です。

映画『ハルカの陶』は、何よりも備前焼がきれいに映し出されていて、その美しい備前焼がどのように作られているのかがていねいに表現されていると思います。備前焼を難しいものと思っている人や知らない人にも魅力が伝わる作品になっているはずです。また、全編岡山で撮影しているので、主人公のハルカが感じる美しい景色の映像と音がすばらしいと思います。ぜひ映画館で楽しんでもらいたいですね。力強く見える備前焼ですが、作品はやさしいテイストになったなと感じています。末次監督の備前焼への愛が込められた作品になっていると思いますね。

**この映画を機会に
たくさんの人に備前焼の魅力を
知ってもらえたらええな！**

火襷（ひだすき）とは、うす茶色の素地に、赤、茶、朱色などの線が「たすき」のようにかかった模様のこと